

## 池田文書の研究 (十九)

池田文書研究会

## 山川幸喜の書簡について

## 山川幸喜の略歴

幸喜は、友益とも称し、土佐藩西洋医学の第一人者といわれた。天保三年十二月二十九日土佐に生れる。文久二年四月二十二日山内容堂公の側医加役となり、五人扶持二十石を給される。同年閏八月江戸で石川桜所に入門、蘭方を学ぶ。慶応三年十月二十八日藩費留学生として長崎留学を命ぜられ、長崎では、前年フランスへ注文したキンストレーキ（人体模型）を受領して長崎病院長マンスフェルトの指導を受け、仏文説明書の蘭訳をするなど解剖学的研究を試みた。帰国後、藩公侍医並となり開成館医局教授をね、のち側医本役に進み医療局頭取を兼ね、禄五百五十石となる。

明治四年宮内省九等出仕を命ぜられる。明治六年権少侍医に任ぜられ、ついで明治八年六等侍医に遷り正七位に叙せられるが、明治十年八月官制改正にともない医員に降格となり、同年退官する。のち東京で開業。明治二十三年の「第一回日本医学会員名簿」には住所が京橋区元数寄屋町二丁目とある。

明治四十四年九月十九日、東京市小石川に没、年八十。妻は須磨といつた。

（参考文献・平尾道雄『土佐医学史考』高知市民図書館、昭和五十二年、大植四郎『明治過去帳』東京美術、昭和四十六年）

## 山川幸喜の書簡

幸喜の書簡は二十三通を数える。幸喜は、土佐藩を代表する蘭方医であり、長州藩を代表する蘭方医の青木研蔵が長州藩の意向をうけて侍医となったように、土佐藩の意向をうけて侍医となったものとみられるが、侍医としては不遇であった。西南戦争の際の財政改革にともない侍医から医員に降格されたのを機に、退官して開業している。

書簡の内容をみると、侍医勤務にかかわるものではなく、もっぱら開業時の医家としての病用である。幸喜の診察した患者には、晩年の岩倉具視をはじめ岩倉家・有馬家・今城定徳家・象本家・広幡家・細川廣世家・伊東家・南家・亀井家・三宅幹吉家・久我真道家などがあつたことがわかる。華族の患者を多数かかえ、謙斎の強い支援を受けながら流行していたことも窺われる。

（遠藤 正治）

## 池田文書 山川幸喜書簡一覽

書簡番号	発信年月日( )内推定	発信者名	受信者名	備 考
1	2917 明治(16)年1月18日	山川幸喜	池田先生	岩倉右大臣熱海旅行
2	2918 明治 年11月28日	山川幸喜	池田大国手	有馬家患者
3	2919 明治 年12月1日	山川幸喜	池田大先生	福岡氏へ御来診
4	2920 明治 年12月31日	山川幸喜	池田大先生	御愛子様御異例
5	2921 明治 年9月23日	山川幸喜	池田大先生	今城定徳殿肺結核
6	2922 明治 年5月5日	山川幸喜	池田大先生	晩餐会招待
7	2926 明治 年4月9日	山川幸喜	池田尊台	象本内証御尊診
8	2923 明治 年4月17日	山川幸喜	池田大国手	象本之患者
9	2924 明治 年5月7日	山川幸喜	池田大先聖	当家御病人様御診察
10	2925 明治 年11月12日	山川幸喜	池田大国手	広幡正二位公姫僂麻質私
11	2927 明治 年11月15日	山川幸喜	池田大先生	細川廣世肋膜炎
12	2928 明治 年9月27日	山川幸喜	池田大先生	岩倉家へ御苦勞様
13	2929 明治 年3月26日	山川幸喜	池田大先生	伊東文姫様拝診
14	2930 明治 年3月18日	山川幸喜	池田大先生	陸軍尉官塩田千稔肺疾
15	2932 明治 年3月16日	山川幸喜	池田	南様御容体
16	2931 明治 年3月18日	幸喜	池田	南様へ御来診
17	2933 明治 年4月11日	山川幸喜	池田大先生	亀井家小兒御来診
18	2934 明治 年4月29日	山川幸喜	池田大先生	三宅幹吉小兒
19	2935 明治 年3月26日	山川幸喜	池田大先生	岩倉亥尾子殿御快方
20	2936 明治 年5月1日	山川幸喜	池田盟台	拙孫不快御来診御礼
21	2937 明治 年8月4日	山川幸喜	大国手池田先生	具綱殿より伝承
22	2938 明治 年10月31日	山川幸喜	池田大先生	久我真道病床
23	2939 明治 年12月28日	山川幸喜	池田大先生	岩倉後室嘔氣之気味

1 明治(十六)年一月十八日

二九一七 山川幸喜 池田謙齋

(封筒裏) 駿河台池田謙齋様侍史

(封筒裏) 岩倉家ニて認 山川幸喜 一月十八日

益御清穆奉拝賀候、陳ハ岩倉右大臣公、来ル廿一日熱海行内  
実御日取りニ相成候、就てハ明後廿日朝八時頃、御苦勞な  
ら御参診被下候様被申出候、御旅行中御葉彼是御示諭被下候  
様奉願度、執御参診之節小生も参殿御教示可奉願、右願用而  
已草々頓首拜

一月十八日 岩倉家ニて山川幸喜

池田先生虎皮下

(一)岩倉右大臣……岩倉具視。明治十六年ガン症にかかり熱海・  
京都に療養した(伊東方成書簡一五五)池田文書の研究十  
『日本医史学雑誌』第四十巻第二号、二三三〜二三四。本  
簡はこの熱海行きの直前のものか。具視は一月二十三日か  
ら二月二十六日まで熱海に療養。七月二十日死去。

(田中)

2 明治 年十一月二十八日

二九一八 山川幸喜 池田謙齋

(封筒裏) 池田謙齋様願用

(封筒裏) 十一月廿八日山川幸喜

昨日之脈膊、体温別紙之通ニ御坐候、奉入高覧候  
有馬家御患者、昨夕相診候処、御熱度却而増進被致、如貴諭、  
四日間もキニ一子指上候得共、都て御瞑眩之徴候も無之、就  
てハ是迄塩酸キニ一子之処、検査之上、硫酸キニ一子ニ取替、  
前量之上三氏ヲ加へ十八氏ヲ三回ニ、今朝より指上候筈ニ仕  
置申候、本日御苦勞ニハ奉存候得共、御練合を以御往診被下  
間敷哉、此段以書中奉伺候、若御往診も被下候ハ、豫メ御  
刻限拜承仕度候、余は拝鳳縷々可申上候、草々頓首

十一月廿八日 山川幸喜

池田大国手 呈閣下

廿七日午前十一時脈九十、温三十七度六分、同十一時過  
御下利、午後三時御下利少々、同三時過脈九十五、温三  
十九度、同五時半脈百四、温三十九度八分 (田中)

3 明治 年十二月一日

二九一九 山川幸喜 池田謙齋

昨日も福岡氏へ御来診被下萬々難有奉存候、御帰之跡参り、  
体温相試候処、格別之違も無之、三十日午後六時半、脈七十  
六・温三十八度七分、同夜十二時前乞診申来、早速拙診仕り  
候処、何分睡眠ニ就キ兼、稍眠ラント欲スレハ直チニ夢ニ醒  
メ、為時妄謬ヲ発スル由、昼間ニ比スレハ引渴も甚敷、精神  
も何トナク不穩様見受申候、午前一時十分前、脈七十八・温

三十九度八分ニ昇レリ、右之如く余程熱発仕候間、至極願兼候得共、今朝外来御診察前、鳥渡御来診被下間敷哉、此段為御相談奉呈一書候也

十二月一日午前一時認 福岡にて

山川幸喜

池田大先生机下

(1) 福岡……福岡孝弟か。孝弟は五箇条御誓文の起草者の一人。明治五年文部大輔、司法大輔。十四年参議兼文部卿。十六年参事院議長。子爵。大正六年没。 (田中)

4 明治 年十二月三十一日

二九二〇 山川幸喜 池田謙齋

(封筒裏) 池田謙齋様尊下 山川幸喜  
(封筒裏) 十二月三十一日

月迫仕候、益御清祥奉拝賀候、然は過日来、御愛子様御異例之由、昨日山科元行より伝承仕候、嘸御心配可被成奉拝察候、猶御保護專要ニ奉存上候、意外之御無音御捨免可被下候、早速御見舞も可申上筈之処、取紛御無音仕候、扱此品甚輕微之至ニ御坐候得共、任倒来奉入貴覽候、御笑留も被下候ハ、本懐之至ニ奉存候、孰明春早々以参愛度可奉拝芝、走々頓首

十二月三十一日 山川幸喜拜

池田大先生呈閣下

(1) 山科元行……典医。旧姓松尾相成。明治十五年宮内省医員となる。明治四十三年没。 (田中)

5 明治 年九月二十三日

二九二一 山川幸喜 池田謙齋

御花筆被投難有奉拝披候、益御安泰奉恐賀候、然ハ今城定徳殿、久敷肺結核症にて、過日も御来診被為下候其節、無抛差支御出会不申上、残懐仕候、御診断御処方等代理之者ヲ逐一伝承仕候、将又本日も御高診御処方書等被仰下、一、安息香酸曹達 吸入、一、吐根浸礪砂加茴香精 水薬、一、カンフル莫兒菲涅 粉剂、一、ケレオソート 丸薬前方、早速調進仕候、御示諭被下候通り、昨今之冷氣ニ付咳嗽も頻発、既ニ上肢下肢とも浮腫ヲ生、追々衰弱相加ハリ他ニ致方も無之次第ニ御坐候、甚御迷惑ハ奉恐察候得共、将又御差繰御序ヲ以御高診之程伏て奉懇願候、右御礼旁如是御坐候、謹言

九月廿三日

山川幸喜

池田大先生呈閣下

(1) 今城定徳……華族。花山院家別家。文久三年生、明治九年承。明治二十五年没。 (田中)

6 明治 年五月五日

二九二二 山川幸喜 池田謙齋

(封筒表 駿河台北甲賀町十五番地 池田謙齋様侍史

(封筒裏) 五月五日 元数寄屋町二丁目壺番地山川幸喜

拜啓仕候、益御多祥奉恐賀候、然は昨日御留守様迄御案内奉  
申上置候通り、明後七日御招待、晚餐奉差上度、何卒御繰合  
を以、該日午後四時頃より御来車被下度奉待上候、尚又奉呈  
郵書候、謹言

五月五日

山川幸喜拜

池田大先生閣下

(田中)

7 明治 年四月九日

二九二六 山川幸喜 池田謙齋

意外之御無音は伏て御捨免ヲ乞

御懇書被投難有奉拝見候、然ハ象本内証御尊診被下萬々奉拝  
謝候、兼て御高診奉乞御相談可申筈之処にて、於小生も大ニ  
力を得申候、尚此上容体ニ寄時々御示論奉受度奉存候間、宜  
敷御許容奉願上候、即本日方御思召通り、本兼とも転方投与  
仕り置申候、孰以參堂縷々可申尽候得共、先右拝報而已申上  
置候、頓首拜

四月九日

山川幸喜拜

池田尊台閣下

(田中)

8 明治 年四月十七日

二九二三 山川幸喜 池田謙齋

益々御清祥奉拜賀候、然ハ昨日は象本之患者態々御尊診被下、  
千万難有仕合奉存候、小生義、御帰館後へ參診、僅カ之時間  
違にて不得拜眉残懷仕候、兼て奉願上置候御高案委細ニ御認  
被下難有奉拝見候、看者より巨細御聞取も被下候通り、去ル  
十二日夕六時頃、不計増寒甚敷(損)可也咳嗽及熱(損)仕り、  
十三日も前様同様之容躰ニ付、十四日不得止、塩酸キニー子  
十氏、生姜末六氏、甘草末六氏、右為丸二包二分チ、憎寒一  
時半前、三十分ヲ隔テ服尽為致候処、存外裁熱ニ相成、將又  
十五日キニー子五氏ヲ前之通りニ作り頓服為仕、御指揮之散  
葉ヲ丸トナシ、シキタリス葉末ハ矢張三氏にてキニー子六瓦  
ヲ加へ(損)水薬ハ何(損)覚え、且吐ヲ促(損)半減ト  
ナシ、桂皮半(損)ヲ熱湯六(損)単別(損)一日  
之量トナシ三回ニ(損)水ハ矢張鎮咳用意ニ仕置申候、右水薬  
加減之義ハ何卒宜敷様御高考被下候様奉願上候、  
○一昨日は橋本先生御来診被下、高案具サニ謹承仕候、格別  
御思召と相変り候義無之、只今之処にてハ吸入剤も可宜旨被  
申聞、幸先日來相用居候其剂カルキ水テレンシ油其俣有之候  
ニ付、如高論一日兩度斗為致居申候、將又室<sup>前</sup>蒸氣法も可然  
旨被申聞候間(損)其装置仕候、昨日御高診之節、体温脈度も  
御量り被下、キニー子ノ量も御記置被下、本日方貴論之通一

氏ヲ増加仕(損) 今日より体温脈度も日々相記置(損) 上候間宜敷(損) 伏て奉懇願候、書余拜(損) 可申上候得共、先右而已御報申上度、早々謹白

四月十七日

山川幸喜拜

池田大国手閣下

再伸、別啓恐入ニは御坐候得共、若橋本先生へ御出会之節ハ宜敷様御伝声被下候様奉願上候、再拜 (田中)

9 明治 年五月七日

二九二四 山川幸喜 池田謙斎

当家御病人様、過日御指揮被下候通り、前方中シキタリス葉モルヒ子共除去致し差上来り候処、一昨日より少々又御感冒之御気味にて、咽喉稍充血し、微痛も被為在候ニ付、塩劑之含嗽劑差上申候、且つ昼夜御咳嗽頻発ニ付、又已前之如クシキタリス、モルヒ子ヲ加へ差上置申候、為メニ、昨夜来ハ漸次御咳嗽少ニ被為成候、乍併、毎夜トールス散ハ御差図之通り差上置候事、尚又御高診之上可然御指揮被為下候様伏て奉希望候也

五月七日午後相認

山川幸喜再拜

池田大先聖

(田中)

10 明治 年十一月十二日

二九二五 山川幸喜 池田謙斎

拜啓仕候、益御清祥奉拜賀候、然は廣幡正二位公御娘〔田〕姫殿、先達て来儂麻質私ニ罹り、腰脚不遂之処、追々快方ニ相成候際、兩度感冒熱ヲ患候、頗ル頑固熱ニ相成、此程衰弱相加ハリ、老人にて調劑仕候義も大ニ心配仕候故、諸先生方へ診斷御受被下候様再三申出置候処、今般御親類御協議之上、尊台へ御来診相願度候ニ付、添書致呉候様本日本家扶之者申参り候間、何卒前件之通御来診之程伏て奉仰望候、御多忙之御中至極願上兼候得共、御繰合を以御来診被下候様奉懇願候、書外奉期拜眉候、稽首再拜

十一月十二日

山川幸喜

池田大国手閣下

病家先 赤坂仲ノ町九番地廣幡正二位公、四五日投与之劑、黄機那皮一匁四分、結重曹半匁、橙皮舍利別一匁、右一日分四回

(1) 廣幡正二位公……廣幡忠禮。内大臣。文政七年生。明治三十年没。

(田中)

11 明治 十一月十五日

二九二七 山川幸喜 池田謙齋

拜啓仕候、益御清榮奉恐賀候、然ハ小生親友細川廣世義、過日來肺助膜炎ニ罹リ、近辺岩佐氏分局詰林龍之助療治相受居候処、未夕分利之効相立不申困却罷在候、就てハ本人義も是非先生之御高診奉煩度、何卒今明日之中御繰合を以御來診被下候様偏ニ奉懇願候、余は奉期拜芝候、謹言

十一月十五日朝 細川ニて認小山幸喜

池田大先生閣下

尚以患者住所左ニ 上六番町廿六番地細川廣世 (田中)

12 明治 年九月二十七日

二九二八 山川幸喜 池田謙齋

拜啓、益御安泰奉恐賀候、然ハ昨日も岩倉家へ御苦勞被下奉拜謝候、御病人様昨夜も先御變り無之、御平穩ニ有之候処、今午後四時頃より少々憎寒<sup>瘧</sup>之氣味ニて嘔氣有之、同六時頃伊東君も御來診、脈搏七十六、体温三十八度三分二昇レリ、就てハ明日輕量之灌腸ヲ施、塩酸キニ一子<sup>十氏乃至十五氏</sup>之注腸ハ如何、尚又先生へ拙筆を以相伺候様、伊東君ヲ被申置候間、御高考奉願上度、尤本日御繰合を以御來診も被下候ハ、可奉待上哉、彼は相伺候也、書外拜眉縷々可申上、走々頓首拜

九月廿七日夜 山下幸喜

池田大先生閣下

(田中)

13 明治 年三月二十六日

二九二九 山川幸喜 池田謙齋

換舌、今宵は御少々御風邪之由、折角御自愛專一ニ奉存候、然ハ当夜十一時、伊東文姫様拜診仕候処、御脈搏百三十、御体温三十九度四分ニて御坐候、御口中御乾燥、頻ニ氷水ヲ被欲候、過刻より耳鳴も有之候様之御容躰、多分キニ一子御投与ニて可有之奉察候、御浣腸御指上後、一行之御便通、多少ハ確と不被承候、只今御快寐ニて、御惣身自汗ニ相成居申候、今夜御代診之御方も御不在ニ付、御高考之為右而已申上度、走々拜具

三月廿六日午後十一時

伊東様ニて山川幸喜

池田大先生

(田中)

14 明治 年三月十八日

二九三〇 山川幸喜 池田謙齋

拜啓仕候、益御清適可被成御坐奉拜賀候、然は陸軍尉官塩田千稔と申者、昨冬以来輕キ肺疾ニ罹リ、微咳及ヒ寒熱之往来消滅セス、遷延今日ニ至り頗ル困却罷在候ニ付、患者ヲ初メ

親類一同示談之上、尊君之御一診奉乞受度段申出、即チ小生之添書を以御相談申上呉候様依托セラレ申候、御用繁之中至極奉恐入候得共、御繰合を以一兩日之中御来臨被下間敷哉、伏て此段奉願上候、書餘御拜鳳可申上候也

三月十八日

山川幸喜

池田大先生侍曹

再伸、御来臨之節、若不得拜顔候時ハ、乍御手数御処方書奉煩度奉願上候也

有楽町二丁目、萬里小路邸内にて中長屋塩田千稔

右患者之宅

(田中)

15 明治 年三月十六日

二九三二 山川幸喜 池田謙斎

拜啓仕候、然ハ昨日も御苦勞被下候南様御容躰、諸症ハ依然中、本日寒風候故歎御憎寒一層相加里、御腹部稍圧重ヲ覺、何トナク御氣先爽快ナラズ御睡眠勝チニ御坐候、午後、脈搏八十位ニ在之、御頭痛ハ聊も無之、御食量且つ御便通先兩三日多少相變り候義無御坐候、何卒明日ハ御繰合を以御来診被下候様奉願度、此段奉願上候也

三月十六日午後

山川幸喜

池田様侍史

(田中)

16 明治 年三月十八日

二九三一 山川幸喜 池田謙斎

拜啓仕候、然ハ昨日も南様へ御来臨被下、御懇書御認置被下難有奉拜見候、早速御処方書之通転方にて指上、且本日より水治法も指上候様御指揮被下置、午后二時半より四時迄指上中、確乎タル御発汗ニも不相成、何分衣褥之圧痛ヲ覺堪忍ベカラザルニ至リ、強て指上候義も難出来、無抛一時半にて相止、衣褥ヲ取り、元ノ床ニ就ント動揺中、御足部聊搖掣、御呼吸も稍短息、御惚体頗ル惰懶之御様子ニ付、氷水一片ヲ御喫シにて御氣先キモ少シク爽快ヲ相覺候由、此体にては明日之水治法如何致し候て宜敷哉之御尋も御坐候得共、初日は御発汗流瀝セズ、又々明日相重ね候時は随分御発汗ニも可相成様申上置候処、将又明日も先時間短ニ相施シ候方如何也、尚御高考被下候て、可然御報奉待上候、乍併御食事御便通ハ先依旧、脈搏、水治法ノ前八十、後九十四、昨夜ハ御不眠にて、今朝方午後一時頃迄睡眠有之候、其他異状ハ無之候間此段奉得貴意度、早々頓首拜

三月十八日午後五時 幸喜

池田様

(田中)



17 明治 年四月十一日

二九三三 山川幸喜 池田謙齋

昨日は御多忙之御中方亀井家之御小兒御來診被仰付難有奉存候、早速御示諭之通り兩劑相用、昨夜より五六行之下利有之、今朝より麻疹見点、今午後御惣身ニ発現仕り、御氣先も昨日ニ比スレハ稍よろしく、熱度も段々下降仕候、咳嗽も先昨日同様ニ御坐候、本劑而已にて先相見合居申候、不取敢此段御報知申上度、早々頓首拝

四月十一日 亀井家にて山川幸喜

池田大先生閣下

(田中)

18 明治 年四月二十九日

二九三四 山川幸喜 池田謙齋

拝啓仕候、陳ハ三宅幹吉小兒、一昨十二時頃大便通有之、其後便通無之、両度も灌腸相旋候得共薬汁而已漏洩仕候而已ニ御坐候、就てハ昨日午後五時廿末五氏之頓服相用候処、夜ニ至り吐乳、何分昨夜も眠りニ付不申困却罷在候、至極申上兼候得共、御尊診之上御所置被下候様奉仰望候、容躰ハ巨細ニ兩親より御聞取可被下候、取急右願用而已、走々拝具

四月廿九日朝

山川幸喜拜

池田大先生

(田中)

19 明治 年三月二十六日

二九三五 山川幸喜 池田(謙齋)

過日ハ早速御來診被下候段別て難有奉存候、依高此本文之如ク輕快相赴候

拜啓仕候、益御清穆可被成御坐奉恐賀候、陳ハ岩倉亥尾子殿、一昨日御來診被下候後格別之異状も無之、漸次御快方ニ被為移候

昨廿五日午前

体温三十七度六分、呼吸三十、脈七十六、

午後

体温三十七度五分、呼吸二十四、脈七十二

今朝午前

体温三十七度二分、呼吸二十、脈六十

昨日夕方より右肺之笛音極微々ニ聴取候処、今朝ハ更ニ消滅仕り候様ニ相成候、脈搏も前件之通ニ相成候間、本日より実芟葉ヲ去り吐根三氏二三考後礮亞精十二m単別ニ考一日分トシ投与仕り置候、尚又御尊考奉願上候、咳嗽も次第ニ減少、從て咯痰も無之、食氣も追々ニ進ミ居申候、此段奉申上候也

三月廿六日

山川幸喜

池田大先生閣下

(田中)

20 明治 年五月一日

二九三六 山川幸喜 池田(謙齋)

益御清祥奉恐賀候、然ハ過日拙孫不快之節、御用繁之御中へ拜願仕、早速御来診被下難有奉存候、恩庇を以漸次快気仕候、此金些少ニハ御座候得共、御粗菓料として呈上仕り度、御笑留も被下置候ハ、本懐之至ニ奉存候、右御礼之驗迄早々如是御坐候也、頓首拜

五月一日

山川幸喜

池田盟台閣下

尚以荆妻・娘どもよりもよろしく御厚礼申上候、再拜

(田中)

21 明治 年八月四日

二九三七 山川幸喜 池田(謙齋)

過日来御眼疾にて御引入御加養之処、御降誕ニ付押て御出仕之旨具綱殿より伝承、嚙御用繁奉察上候、扱檜山殿漸次快方之処何分便通無之、灌腸両度も相施候得共不奏効、仍て昨朝芦薺三氏 大黄末二氏 ヒヨス水五氏 甘草末二氏 右糊丸 頓服ニ差上候処、追々小腹ニ微痛を起シ、従て前之胃痛相発、コロラールヒトラート十氏ノ頓服にて漸々鎮静ニ相成、大便昨夕より今朝まで二都合三行有之、本日は些少之痛ミも無之心下頗ル開谿ヲ覚へ、患者方初て快然タル厚礼ヲ述

ル様ニ相成申候、右之都合ニも御坐候ハ、最早格別異状も無

之事と奉存候、一昨日来ハ矢張り胃液而已相用、本日丈少量ノ莨若エキス丸投与仕り置申候、御多忙中之際ニ被為在候故、右之容躰なれば別段御来診不奉煩とも宜敷敷と奉存候、此段一寸愚札ヲ以申上度、早々不具

八月四日 岩倉家にて 山川幸喜

大國手池田先生侍史

(1) 具綱……岩倉具綱。父は富小路政直。岩倉具視の養子となる。明治六年宮内大録に任ぜられ、ついで掌典となり、多年掌典長を勤める。大正十二年没、年八十三。(田中)

22 明治 年十月三十一日

二九三八 山川幸喜 池田(謙齋)

益々御清祥可被成御奉務奉恐賀候、然は過日ハ岩倉家患者ニ付てハ色々御配慮被下、時々御苦勞をも被下方々難有奉存候、其後御礼も不申上欠敬仕候、扱南佐恵木町久我真道義、先日來病床ニ御坐候処、何分博々敷無御坐候、就てハ御多忙中奉願上兼候得共、一兩日之中御一診奉乞度当人方も奉仰望居候間、何卒御繰合を以御来車奉願度、右ニ付昨日一寸以參堂御門生迄奉願置候、御都合次第御回診も被下候ハ、難有奉存候、右願用而已、早々不悉

十月卅一日

山川幸喜

池田大先生閣下

(1) 久我真道……明治八年侍医局薬剤生。

(田中)

23 明治 年十月二十八日

二九三九 山川幸喜 池田(謙齋)

拜啓仕候、益々御清祥奉恐賀候、然ハ岩倉御後室昨日御来診被下候□□御異状無之候得共、只胃部苦悶嘔氣之気味ヲ訴フル而已ニ御坐候

昨午後五時半

一脈七十二 体温三十七度三分

本日午前八時

脈七十二 体温三十六度八分

右体温下降罷在候故、今朝ハキニ一子半減□□相用置候、水薬ハ前方上げ置候、兎角キニ一子丸御服用後ハ嘔氣増加被致、御迷惑之御様子ニ御坐候、御示諭之通り昨日尿之試験仕候処少々蛋白分有之、又昨夜相試験候処更ニ沈澱物無之、今朝又々試験仕候処少量之蛋白分有之候、此段申上置度、早々頓首

十月廿八日 山川幸喜

池田大先生閣下

(田中)

